

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶4◀

昼食会で一人一人に口酸っぱく指導



◆山田耕二（やまだ・こうじ） 1942（昭和17）年5月23日生まれ、73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

視聴覚教室でのミーティング兼食会では、箸の持ち方もよく注意した。交差させて持ったり、スプーンのように握って持ったりと、おかしな持ち方のオンパレードだった。

さあ、ここからが大変だ。一人一人、持ち方を正していく作業が始まる。

「箸は2本のうち1本は動かさないんだぞ。薬指の上に添えるんだ」「もう片方を鉛筆のように持って、人さし指で動かすんだ」

箸をきちんと持つことは、日本人としてのマナーだ。誰かに会ったら「こんにち

は」。家上がる時は靴をそろえる。食べる前には手をそろえて「いただきます」。こういった当たり前のことと同じなのだ。

大人になって働きたせば会社の接待もある。変な箸の持ち方から、常識のない人だからしな持ち方をしてる。箸

の持ち方一つで家庭の中が見えるのだ。

子どもの体は食事をたくさん与えさえすれば、大きくなる。しかし「大きくする」と「育てること」は違う。中身をともなう成長してもらったためには、小さなことから教えていくことが大切なのだ、今あらためて思っている。

◇

箸の持ち方一つで家庭の中が見える

夜回りまでして高校日本一に導いた山田耕二さんと生徒とのエピソードを連載する。